



はじめ君、アイスを食べる。あまりお菓子やアイスはあげませんが、暑い日のアイスは、大人の冷たいビールと一緒に、さぞおいしいことでしょう！



これ、カルガモの親子です。別にカルガモのいる公園に行ったわけではありません。6月6日、店の裏を7匹の小ガモを引き連れ歩いていました。

どこから来たのでしょうか？当然小ガモは飛べませんから、道路を歩いてきたのでしょうかね。と言っても、カルガモが生息している池などは近くにありません。1kmくらい先に、道保川公園といった小さな公園があるくらいです。まさか、そこから車が走る道路をヒョコヒョコ歩いてきたのでしょうか？

目と鼻の先には、車の往来が多い4車線道路です。あんな道を渡った日には、小ガモがばらばらになって轢かれてしまいます。幸いなことに、道路向こうの大型店舗で、先程からパトカーが数台、警官が10人ほど来て、不穏な動きをしています。事件でしょうか？そんなことより、カルガモをどうするか？お巡りさんに相談です。



いかついおまわりさんの一人が、カルガモ担当に任命されたようで、まず小ガモの捕獲に挑戦です。

オノドラから出た段ボール箱に小走りの小ガモを入れる作戦？です。お～！すばらしいツーステップで、いかついおまわりさんが小ガモを追いかけています。それに驚いた親ガモは、近くの屋根に逃げ、その様子をジ～ッと見つめています。



この日のために日々鍛錬をしてきたおまわりさんのお陰で、約20分くらいで全部の小ガモの捕獲に成功しました。しかし、問題は親鳥です。

親鳥には空を飛べる羽があります。1案、餌を撒いておびき寄せ網をかける。2案、当たらないように拳銃を撃って、音で失神させる。3案、小ガモの一匹にひもを付けて歩かせ、段ボール箱をかぶせる。4案、ヘリコプターを出動させ、空から捕まえる。等々、色々な作戦が考えられたかどうかは知りませんが、おまわりさんいわく、「段ボールから小ガモが見えるようにして歩けば、親鳥は付いてくる」

そうやって、おまわりさんは段ボールを持ち、池のある1km先の道保川公園まで歩いて行きました。最初親鳥は、屋根の上からしばらくの間動きませんでした。が、視界から見えなくなると一変、急降下でおまわりさんの頭スレスレに飛んでいきました。頭上をグルグル周り、時々急降下です。「あのおまわりさん、公園に着くまでに、きつと頭の5つや6つ、つつかれんだらうねえ」と周りの声。しかし、子供を捨てちゃう人間の親がいる世の中に、感動的なカルガモの親子愛を見させていただきました。無事に育つてね！小ガモちゃん！！